

地域と目指した子ども・若者の思いを地域づくりに反映する取組

取組の背景・目的

<背景>

・地域住民から「これからの地域を支えていく若い人の思いが聴きたい」と児童館に相談があった。地域住民が地域の課題について話し合う場に、子ども・若者が参加する機会はほとんどなく、コロナ禍によってさらに交流する機会がなくなった。「こどもまんなか社会」が少しずつ地域住民にも広がってきた中で、地域の中で子ども・若者の様子をよく知る児童館が協力して、地域と共に意見交換の場づくりに取り組んだ。

<目的>

- ・多世代での交流の中で、地域のつながりを再構築する。
- ・地域の魅力や課題を共有する中で、子ども・若者から出た思いを地域づくりに反映していく。

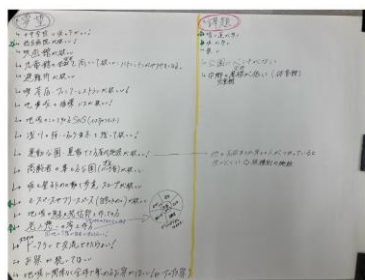
取組の概要

NAGAFUSA ミライ☆ミーティング

1 内容

<第1回>令和3年（2021年）11月実施

- ・児童館を利用する中学生と児童館でボランティアとして活動する大学生、地域に住む高齢者が地域の魅力や課題を地図を作成する中で共有した。
- ・住みやすい地域にするにはどうしたらよいかなどこれからの地域づくりについて検討した。



<第2回>令和5年（2023年）2月実施

- ・地域内には高等学校も立地している。その学校では授業の一環として「住みやすいまちづくり」を考察する探究学習を行っていることから、地域住民に高校生が考えた「住みやすいまちづくり」について発表していただいた。
- ・子育て世代から高齢者まで幅広い世代が抱えている課題をカードゲーム形式で、交流を図りながら解決方法を検討した。

2 場所

- ・市内企業の協力のもと、店舗内に設置された交流スペースで実施した。

3 運営

- ・主に協力企業や民生委員などの地域で活動している団体が協力して会場設置や事前準備などを担当し、児童館職員は子ども・若者のサポートを中心とした事業全体のコーディネートを行った。

工夫点・留意点

<大学生の参加>

- ・中学生の中には日ごろから高齢者と接することのない子どもが多く、初めての場所で緊張することが予想された。そこで、年齢の近い大学生が寄り添いながら参加することで、限られた時間での交流会でもスムーズに参加できるようにした。

<事前ワークショップの実施>

- ・書面での説明だけでなく、事前に参加者である子どもや若者、高齢者と当日の内容や各世代の状況など共有するワークショップを実施し、イメージを持った上で参加できるようにした。



取組の効果

<ロールモデルの存在>

- ・交流会に大学生が参加したことで、中学生が高校や大学での様子を興味深く質問する姿が見られ、近い将来の自分の姿をイメージする機会となったと思われる。

<子どもの思いを反映した取組>

- ・中学生の地域への思いの中に「世代を超えて楽しめるイベントがしたい」があった。そこで、児童館が中心となって、事業に協力した団体だけでなく、地域の多くの団体の協力のもとでイベントを行った。

課題・今後の展開

<地域でのつながりづくり>

- ・児童館がこれまでも行ってきた多世代交流や子ども・若者の地域参加は地域のつながりづくりの視点で今後も必要である。特に防災の観点ではこのつながりが共助として生きてくる。

<持続可能な事業の仕組みづくり>

- ・高齢化が進むことで、地域の各団体だけでこれまでできていたことが難しくなっているようである。今後は児童館もそれぞれの団体と協働し、地域全体の子育て力強化ができるような仕組みづくりを検討していきたい。